

くまびょう

121号

NEWS

くまびょう
NEWS2007年
7月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター

〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501代
FAX (096) 325-2519

化学療法センターの充実と取り組みについて

化学療法センター長
清川 哲志

当院はがん専門医療施設の指定をうけがん治療のために各科で手術、化学療法、放射線療法を積極的に行っています。最近のがん化学療法の進歩にともない外来での化学療法が推進されており、がん患者様のQOLの向上を目指して当院でも化学療法センター

の充実を図っております。これまで、1999年11月に第1化学療法センターを9ベッドで運用を開始し、外来での化学療法を行って参りました。昨年9月には、新たに第2化学療法センターとして、5ベッドを増設し、病室と同じ感覚で長時間の点滴でも快適に過ごせるようになりました。

外来化学療法を受ける患者様は、当日の採血の結果により治療を行うかどうか決定され、薬剤のオーダーが出されて点滴を行ってきました。このため、治療開始前に長時間お待たせすることがありました。この時間を短縮するために、採血を優先して行うこととしました。さらに、外来化学療法の薬剤を事前に準備するために外来で行っている化学療法のレジメを薬剤部に登録し予約することで、投与を安全、確実にできるよ

うにしました。患者様への説明パンフレット等の充実も図っております。

現在、毎月平均110名前後の患者様が外来での化学療法を受けており、これからも増加していくものと予想しております。在宅での安全性を増すためには、地域の先生方との連携が必要であり外科では外来化学療法のための地域連携クリティカルパスを開発していません。安全な化学療法と質の高い在宅生活のためにこれからも取り組みを充実して参ります。

引き続き患者様のご紹介ならびにご指導のほど宜しくお願い申し上げます。



第2化学療法センター

基本理念

国立病院機構熊本医療センターは

1. 最新の知識と医療技術をもって良質で安全な医療を提供します
2. 人権を尊重し、愛と礼節のある医療の実践を目指します
3. 教育・研修・研究を推進し、医学・医療の発展に寄与します
4. 国際医療協力を通して世界人類の健康に貢献します
5. 健全経営に努め、医療環境の向上を図ります



医療連携の一端を担う病院として

医法) 朝日野会
朝日野総合病院
副院長 加生 雅也



この度は「くまびょうニュース」に掲載する機会を与えていただき、誠にありがとうございます。

当院は立田山の山麓に位置し、熊本市においては、北熊本地区に救急指定病院が手薄であるという地理的理由もあり、甚だ微力ではありますが同地区の一次救急病院として患者様の受け入れを行っております。しかしながら、十分なマンパワーが

備わっていない診療科もあり、そのような際には、救急あるいは重症患者様を貴院へお願い申し上げます。

一方で当院は回復期リハビリ病棟を有し、貴院において急性期を脱した患者様をお引き受けすることで、患者様の社会復帰のお手伝いをいたしております。また、当院透析センターでは、貴院において導入に至った人工透析患者様を御紹介いただき、維持透析をおこなっております。

糖尿病を専門にいたしております私個人に関して申し上げますと、糖尿病患者様は精神的ストレスが多いためか、しばしばうつ病になることがあり、さらにこれを契機に血糖コントロールも乱れるケースがあります。その際には貴院精神科へ御紹介させていただいております。またその一方で、貴院においてインスリン導入をおこなったものの、インスリン自己注射をおこなうことが困難な高齢の患者様を当院でお引き受けし、長期療養型病棟にてお世話させていただいております。

これからも医療連携のパートナーとして何卒よろしく申し上げます

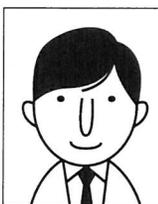
国立病院機構熊本医療センター開放型病院登録医証の発行について

登録医証は、共同指導の際に名札としてご利用頂けます。発行をご希望の先生は、管理課庶務係(TEL 096-353-6501 内線390)までお申し込み下さいますようお願い致します。

写真は時間内であれば当院内で撮影できますし、縦4cm×横3cmで顔全体が写っているものをお持ち頂いても結構です。

また、駐車場については、玄関前駐車場ゲートにて駐車券をお取り頂き、0番窓口(時間内)又は、時間外受付(時間外)にお申し出頂ければ、無料の手続きを致します。

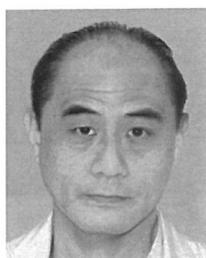
開放型病院登録医証



〇〇〇 医師会
熊本 太郎

平成19年1月1日交付
国立病院機構熊本医療センター

1. 国立病院機構熊本医療センターで診療を行う場合は、この証を持参し名札として着用下さい。
2. 駐車場を利用される場合は、この証を駐車場入口で提示して下さい。
3. この証の記載事項に変更があったときは速やかに届け出て下さい。
4. この証の有効期限は3年間と致します。



橋本 伸朗

整形外科一般、脊椎外科
外傷外科

日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会脊椎脊髄病医
日本リウマチ学会専門医
日本リハビリテーション学会臨床認定医
日本脊椎脊髄病学会指導医



前田 智

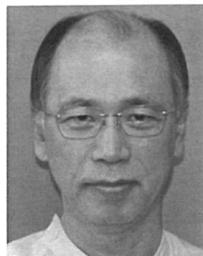
整形外科一般、肩関節外科
股関節外科、外傷外科

日本整形外科学会専門医
日本体育協会スポーツドクター



砥上 若菜

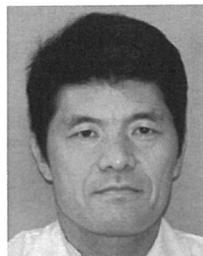
整形外科一般、外傷外科



野村 一俊

整形外科一般、膝関節外科
股関節外科、関節リウマチ

日本整形外科学会専門医
日本リウマチ学会専門医
日本整形外科学会スポーツ医
日本整形外科学会代議員
日本リウマチ学会評議員
西日本整形災害外科学会評議員
日本医療マネジメント学会理事
熊本大学医学部臨床教授



福元 哲也

整形外科一般、膝関節外科
股関節外科、外傷外科

日本整形外科学会専門医



中馬 東彦

整形外科一般、関節外科
外傷外科

日本整形外科学会専門医

90%以上に使用しています、また、転院治療例に対しては、転院施設と結ぶ地域連携クリティカルパスを活用しています。

診療実績

従来、関節鏡視下手術による低侵襲手術に積極的に取り組んできましたが、現在、人工股関節置換術、人工膝関節置換術にも低侵襲手術を導入し、さらに、平成18年度より鏡視下脊椎手術にも導入し積極的に取り組んでいます。

平成18年度の整形外科手術件数913件の内訳をみると、疾患別では、骨折が半数以上を占めていますが、脊椎手術が175例、人工膝関節置換術が49例、人工股関節置換術が50例、人工肩関節置換術が1例、人工骨頭置換術が70例でした。

平成18年度の整形外科新入院患者数は、1,106名で、平均在院日数は、15.7日でした。(次ページへ続く)

特色

近年、医療機関の機能分化が進み、医療連携なくして医療は行えなくなってきています。急性期医療を担う当院整形外科では、手術的治療が中心となっています。従って、術後リハビリテーションを要する多くの症例は、リハビリテーション施設へ転院治療をお願いしています。医療の標準化・質の向上を目指して10年前よりクリティカルパスを導入し、現在、入院症例の

■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで

2007年 診療科紹介(13) 整形外科続き

研究

QOL 向上のための人工関節置換術、脊椎手術を中心とした低侵襲手術の臨床研究を続けています。これらの研究は、単に術式・材料に留まらず、総合的な医療の質向上のためのクリティカルパスと結びつけた研究としても発展しつつあります。現在、国立病院機構の政策医療ネットワーク骨・運動器共同研究として、大腿骨近位部骨折の予防、頸椎症性脊髄症の病態解明と手術法の標準化の臨床研究に参加しています。また、厚生労働科学研究では、主な医療行為に対するクリティ

カルパスの臨床評価指標及び経営管理指標を用いた評価方法の開発と医療機関経営に与える影響に関する研究に参加しています。

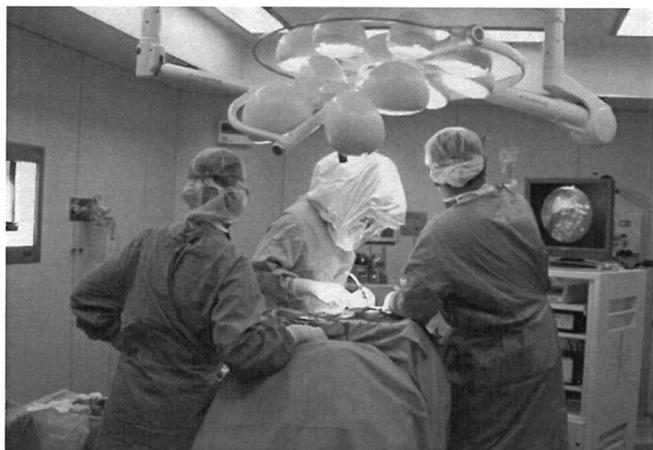


写真 脊椎鏡視下手術

…ご案内…

看護学校受験生のためにオープンキャンパスを行います

■開催日時 2007年7月29日(日) 13時~17時 ■場所 国立病院機構熊本医療センター附属看護学校

国立病院機構熊本医療センター附属看護学校をより多くの受験生や保護者、高校の先生方に知って頂くために、今年も7月29日(日)にオープンキャンパスを計画しています。当校のオープンキャンパスも今年で3回目になり、看護学生気分を味わってもらえるような企画を準備しています。

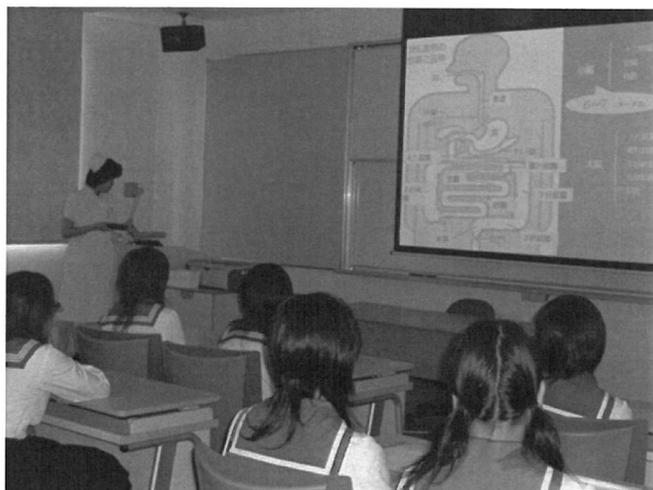
体験学習では在校生の指導の下、実際に友達の血圧を測定したり、かわいい赤ちゃんのモデル人形を入浴させたりと色々な体験ができます。また、妊婦体験や老人体験では、色々な装具を体に付けることで、自分が妊婦さんやお年寄りになったような感覚を味わうことができます。看護学校で行われている授業にも参加できます。実際に包帯を巻いたり、便秘予防の体操を行ったり、教員と一緒に看護の勉強を体験して頂いています。白衣体験では、自分の好きな白衣を試着して

写真を撮ることができます。様々なデザインと色の白衣が準備してありますので毎年とても好評です。かわいい白衣を着て友達と撮影した写真は良い記念になると思います。参加した高校生は、雰囲気がとても明るく楽しかったとの感想でした。

その他、当校に興味を持っている方に向けて進路相談も企画しています。進路相談では進路の悩みに当校の教員が個別対応しています。毎年、オープンキャンパスに参加した学生が多数入学しています。今年も色々な方においで頂き、良い学生が入学してくれることを期待しています。そして、私たち職員は、入学した学生を大切に育てていき、質の高い学生を送り出したいと思っております。

(国立病院機構熊本医療センター附属看護学校

教員 豊田 恵美)



昨年のオープンキャンパス体験学習風景

最近のトピックス

過活動膀胱
(Overactive Bladder Syndrome; OAB)について



泌尿器科

陣内 良映

尿失禁は人間（動物でも）の尊厳に接する問題で以前は“おしっこが漏れるなんて恥ずかしい”とか“高齢者の問題”とあまり日の当たる疾患ではありませんでした。しかし、1990年代に行われた厚生労働省の調査によると「地域社会における60歳以上の人のうち男性で10%、女性で20%の人が尿失禁に悩んでいるが、治療を受けているのはそのうちの10%以下である」ことが明らかになり、尿失禁に関する関心は日本の泌尿器科医のみならず世界中の泌尿器科医で高まりました。その中で特に蓄尿症状を主体とした過活動膀胱は頻度の高いQOL疾患として、2002年の国際尿禁制学会用語基準より取り扱いが大きく変更され、難しい検査（尿流動態検査など）を必要としない「尿意切迫感を必須とし、通常頻尿および夜間頻尿を主訴とし尿失禁は必須ではない症状症候群」と定義されました。これに沿った日本での疫学調査では40歳以上の有病率は12.4%であり、800万人を超す患者の存在が推定されています。

このようにわずらわしい検査を必要としない、症状から診断できる症候群であることは泌尿器科専門医で

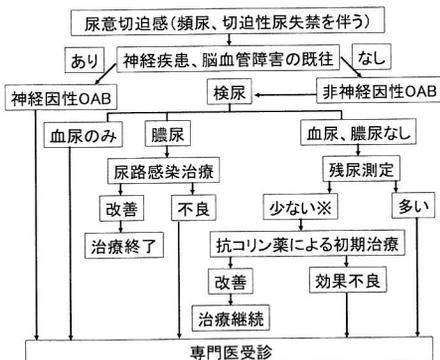


図1. 過活動膀胱の診断アルゴリズム
(少ない※=50ml以下)

なくとも正しい治療を行うことができる。つまり、かかりつけ医での治療が可能であることを示しています。

実際、生命に危険のないことでわざわざ泌尿器科専門医まで紹介するのはどうかと医師側が迷う場合もあるでしょうし、患者側も軽い尿漏れぐらいで専門医の受診を勧められても、といったことが日常の診療の中で多くあるのではないかと想像します。

2005年に日本排尿機能学会よりガイドラインが作成されその中に過活動膀胱質問表(OAB Symptom Score; OABSS)が記載され(表1)、合計スコアが5点以下を軽症、6~11点を中等症、12点以上を重症とすることが推奨されています。

ここで一般医家を対象とした過活動膀胱の診断アルゴリズムを示します(図1:臨床泌尿器科60巻9号、p649より抜粋)。これに従い診療を行うことで、泌尿器科以外の非専門医にも初期治療が可能になったことは多くのOAB患者に福音となることと思います。ただ、診療に際しては過活動膀胱と同様の症状を呈する他疾患(表2)を鑑別・除外することが重要となってきます。

おかしいと判断された場合や他の随伴症状が顕著な場合は除外診断の為にぜひ泌尿器科専門医へのご紹介をお願い致します。

表1. 過活動膀胱症状質問表 (OABSS)

| この1週間のあなたの状態にもっとも近いものをひとつ選んでください。 | | | |
|-----------------------------------|----------------------------------|-----------|-----------|
| 質問 | 症 状 | 点数 | 頻 度 |
| 1 | 朝起きたときから寝るまでに、何回くらい尿をしましたか？ | 0 | 7回以下 |
| | | 1 | 8~14回 |
| | | 2 | 15回以上 |
| 2 | 夜寝てから朝起きるまでに、何回くらい尿をするために起きましたか？ | 0 | 0回 |
| | | 1 | 1回 |
| | | 2 | 2回 |
| | | 3 | 3回以上 |
| 3 | 急に尿がしたくなり、我慢が難しいことがありましたか？ | 0 | なし |
| | | 1 | 週に1回より少ない |
| | | 2 | 週に1回以上 |
| | | 3 | 1日1回くらい |
| | | 4 | 1日2~4回 |
| | | 5 | 1日5回以上 |
| 4 | 急に尿がしたくなり、我慢できずに尿をもらすことがありましたか？ | 0 | なし |
| | | 1 | 週に1回より少ない |
| | | 2 | 週に1回以上 |
| | | 3 | 1日1回くらい |
| | | 4 | 1日2~4回 |
| | | 5 | 1日5回以上 |
| 合計点数 | | 点 (15点満点) | |

表2. 鑑別・除外すべき疾患・状態

| |
|--------------------------------|
| ① 膀胱の異常：膀胱腫瘍(癌を含む)、尿路結石、間質性膀胱炎 |
| ② 骨盤内の異常：子宮(婦人科)疾患 |
| ③ 前立腺・尿道の異常：前立腺癌、尿道結石 |
| ④ 尿路・精路感染症：細菌性膀胱炎、前立腺炎、尿道炎 |
| ⑤ その他：尿閉、多尿、心因性頻尿 |

最近のトピックス

新しい糖尿病治療薬
- インクレチン -



内科医長

豊永 哲至

糖尿病の新しい治療薬が脚光を浴びています。日本においても今後この薬剤を使った糖尿病治療が始まるものと考えられますので作用機序、薬理作用、臨床試験について簡単に御紹介したいと思います。

1) インクレチンはインスリン分泌を増強する

小腸からの抽出物に血糖降下作用があることは以前から知られており、この血糖降下因子はインクレチンと呼ばれていました。このインクレチンは食事の摂取とともに小腸から分泌され、膵臓のβ細胞に作用することでインスリンの分泌を増強します。血糖（グルコース）もβ細胞に作用してインスリンの分泌を促進しますが、インクレチンによるインスリン分泌にはグルコースによりβ細胞内でカルシウムが増加することが必要です（図参照）。そのためインクレチンは血糖値が低

い状態ではインスリン分泌は増加せず、血糖が高くなって初めてインスリン分泌を促進する（低血糖を来しにくい）という特徴があります。

2) インクレチンは膵β細胞保護作用を有する

また、インクレチンは膵β細胞の増殖を促進する、あるいは細胞死を抑制するという長所を持っています。私が熊本大学在職中に当科の児玉医師と行った研究においても膵β細胞再生過程においてインクレチンを投与すると再生・分化に重要な役割を果たす遺伝子の発現が増強することを明らかにしました。更には、食欲抑制作用を有することも明らかとなっています。

3) インクレチンは高血糖を改善する

このようなインクレチンの優れた糖代謝改善作用を治療に応用しようとする試みが続けられています。臨床応用するにあたっての最大の問題は、インクレチンは血液中の分解酵素の影響で非常に早く活性を失ってしまうことでした。このため、インクレチンの活性が失われないように分解酵素によっても分解されないインクレチン誘導体（注射薬）の開発と、分解酵素の働きを阻害する薬剤（経口薬）の開発が行われました。現在、これらの臨床試験が日本でも行われており、その結果が期待される所ですが、米国ではHbA1cの低下・空腹時血糖値の低下・体重減少を起こすことが明らかとなり、2005年に承認され使用されています。日本においても有望な糖尿病治療薬として注目を集めています。

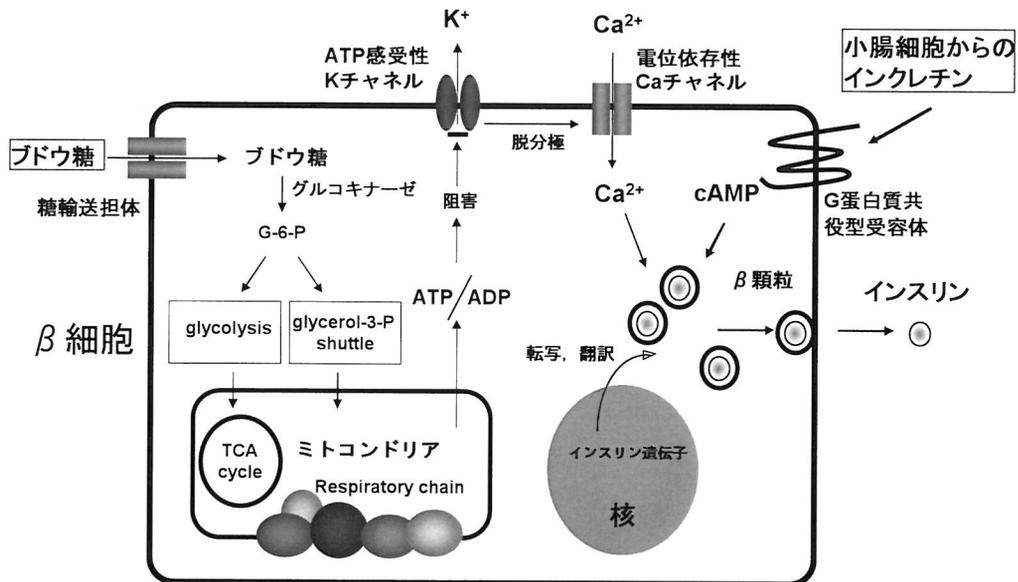


図 ブドウ糖とインクレチンによるインスリン分泌機構

■ 研修のご案内 ■

第71回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）

[日本医師会生涯教育講座3単位認定]

[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶2007年7月19日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 動脈硬化とその予防

国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科医長 藤本 和輝

2. 低血糖発作が10年以上持続したインスリンノーマおよびMEN1型が疑われた1例

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科 市原ゆかり

3. 国立病院機構熊本医療センターで行っている糖尿病教室の実際とアンケート調査からみた教育効果

国立病院機構熊本医療センター薬剤部 吉富 久徳

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一郎 TEL 096-353-6501 (代表) 内線705

第214回 初期治療講座（会員制）

[日本医師会生涯教育講座5単位認定]

日時▶2007年7月21日(土)15:00~18:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「歩行障害」

座長 熊本県医師会理事 田代 祐基

1. 整形外科的立場から

国立病院機構熊本医療センター整形外科医長 橋本 伸朗

2. 神経内科的立場から

国立病院機構熊本医療センター脳神経センター神経内科医長 田北 智裕

3. 脳神経外科的立場から

国立病院機構熊本医療センター脳神経センター脳神経外科医長 大塚 忠弘

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費20,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

第102回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

[日本医師会生涯教育講座3単位認定]

日時▶2007年7月23日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 胸部X線写真供覧

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター呼吸器内科医長 森松 嘉孝

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例提示「汎血球減少を呈した神経性食思不振症の若年者の1例」

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液・膠原病内科 松井 崇浩

4. ミニレクチャー「劇症1型糖尿病と新スクーリング基準」

国立病院機構熊本医療センター内科医長 豊永 哲至

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線写真、心電図等がございましたら、ご持参下さいませようお願い致します。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

第87回 総合症例検討会(CPC)

[日本医師会生涯教育講座5単位認定]

日時▶2007年7月25日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

テーマ：80歳代男性、多臓器不全で緊急入院となった

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター救命救急センター

原田 正公

病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部臨床病理室長

村山 寿彦

「入院2ヶ月前より原因不明の発熱があり、近医に入院し原因精査中であった。ステロイドの投与が行われて一次解熱をしていたが、入院3日前より再度発熱が出現し多臓器不全の状況となり紹介入院となった。」

* 臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー（解説）の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

2007年

研修日程表

7月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

| 7月 | 研修ホール | 会議室 | その他 |
|--------|--|---|--|
| 1日(日) | 9:30~15:40 第22回 臨床薬理セミナー〈会費制〉 「感染制御の知識について」 1. EBMから見た院内感染対策 2. より効果的な抗菌薬の治療について 3. 消毒の考え方と実際 4. PK/PD理論に基づく感染症治療薬の適正使用 | 国立病院機構熊本医療センター-外科医長 芳賀 克夫 昭和大学医学部臨床感染症学教授 二木 芳人 山口大学医学部附属病院薬剤部准教授 尾家 重治 同志社女子大学薬学部教授 森田 邦彦 | [日本医師会生涯教育講座5単位認定] [日本病院薬剤師会生涯研修3単位認定] |
| 2日(月) | | | 8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来 |
| 3日(火) | | 18:00~19:30 血液病懇話会(図) | 8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C |
| 4日(水) | | | 17:00 消化器疾患カンファレンス C |
| 5日(木) | | | 7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M |
| 6日(金) | | | 8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C |
| 7日(土) | 14:00~16:00 第199回 滅菌消毒法講座《会員制》 「洗浄について」 | 熊本市立熊本市民病院手術部 青木千津子 15:30~17:30 熊本地区核医学技術懇話会 | |
| 9日(月) | | | 8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来 |
| 10日(火) | 19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会 | 18:00~19:30 血液病懇話会(図) | 8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C |
| 11日(水) | | | 17:00 消化器疾患カンファレンス C |
| 12日(木) | | | 7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M |
| 13日(金) | | | 8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C |
| 17日(火) | 18:00~19:30 第38回 くすりの勉強会(公開) | 18:00~19:30 血液病懇話会(図) | 8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C |
| 18日(水) | | | 17:00 消化器疾患カンファレンス C |
| 19日(木) | 19:00~20:45 第71回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定] | 19:30~21:00 有病者歯科医療研究会 | 7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M |
| 20日(金) | | | 8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C |
| 21日(土) | 15:00~18:00 第214回 初期治療講座《会員制》 「歩行障害」 1. 整形外科的立場から 2. 神経内科的立場から 3. 脳神経外科的立場から | 熊本市立熊本市民病院手術部 青木千津子 15:30~17:30 熊本地区核医学技術懇話会 | 10~12 楽しく学ぶ基礎看護技術講座 学校 |
| 22日(日) | 8:50~14:00 第14回 膝関節セミナー〈会費制〉 ~変形性膝関節症の諸問題~ 1. 膝関節疾患の最新の画像診断 2. 変形性膝関節症のリハビリテーション 3. 脛骨高位骨切り術の現状と今後 4. 人工膝関節置換術の現状と今後 | 国立病院機構熊本医療センター-整形外科医長 橋本 伸朗 国立病院機構熊本医療センター-神経内科医長 田北 智裕 国立病院機構熊本医療センター-脳神経外科医長 大塚 忠弘 熊本大学大学院医学薬学研究部放射線診断学教授 山下 康行 労働者健康福祉機構九州労災病院 スポーツ整形外科部長/関節疾患治療研究センター長 井原 秀俊 横浜国立大学大学院医学研究科運動器病態学教授 齋藤 知行 福岡整形外科病院院長 王寺 享弘 | [日本医師会生涯教育講座5単位認定] [日整会4単位認定(スポーツ1単位・リウマチ3単位含む)] |
| 23日(月) | 19:00~20:30 第102回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定] | | 8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来 |
| 24日(火) | 18:30~20:30 血液研究班月例会 | 18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会 | 8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C |
| 25日(水) | 19:00~20:30 第87回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 「80歳代男性、多臓器不全で緊急入院となった」 | | 17:00 消化器疾患カンファレンス C |
| 26日(木) | | 19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会 | 7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M |
| 27日(金) | | | 8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C |
| 28日(土) | 13:30~17:00 第70回 ナースのための救急蘇生法講座〈会費制〉 講師 国立病院機構熊本医療センター-麻酔科部長 江崎 公明ほか | | |
| 30日(月) | | | 8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来 |
| 31日(火) | | 18:00~19:30 血液病懇話会(図) | 8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C |

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手術室控室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 M ミーティングルーム 学校 看護学校 研食 教育研修棟食堂
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター-地域医療研修センター
TEL 096-353-6501(代) 内線263 096-353-3515(直通)